

1. 産業連関表の見方

産業連関表の見方について、2020 年阿久根市産業連関表 ver.1（統合 3 部門表）を用いて解説する。

〔2020 年阿久根市産業連関表 ver.1（統合 3 部門表）（億円）〕

供給部門 \ 需要部門		中間需要				最終需要				需要合計	(控除) 移輸入	市内生産額
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	中間需要計	市内最終需要		移輸出	最終需要計			
						消費	投資					
中間投入	第1次産業	13.2	174.4	2.2	189.7	7.7	1.0	22.5	31.3	221.0	-131.2	89.8
	第2次産業	23.4	139.0	71.0	233.3	85.8	138.8	430.7	655.2	888.5	-288.4	600.2
	第3次産業	13.9	100.5	143.1	257.6	543.2	44.7	115.1	703.0	960.7	-251.5	709.2
	中間投入計	50.5	413.9	216.3	680.7	636.7	184.5	568.3	1,389.6	2,070.2	-671.1	1,399.1
粗付加価値	家計外消費支出(行)	0.5	6.2	11.2	17.9	需要合計＝中間需要＋最終需要 市内生産額＝需要合計－移輸入 ＝中間投入＋粗付加価値						
	雇用者所得	12.8	80.3	241.1	334.3							
	その他所得	25.9	100.0	240.6	366.5							
	粗付加価値部門計	39.3	186.3	492.9	718.5							
市内生産額		89.8	600.2	709.2	1,399.1							

■ タテ（列）方向の見方

産業連関表のタテ（列）方向は、各産業が生産のために投入（購入）した費用構成を表している。つまり、生産のために原材料等をどこからどれだけ買ったか、また、新たに生まれた価値はいくらかを表している。

このうち、使用した原材料等のことを「中間投入」と呼び、生産活動によって新たに生み出された価値（賃金や企業の利潤等）のことを「粗付加価値」と呼ぶ。

産業連関表をタテ（列）方向に見た場合、中間投入＋粗付加価値＝市内生産額という関係式が成り立つ。

■ ヨコ（行）方向の見方

産業連関表のヨコ（行）方向は、各産業が生産した商品の販路構成を表している。つまり、生産物をどこへどれだけ産出（販売）したかを表している。

このうち各産業へ原材料等として販売されたものを「中間需要」と呼び、家計での消費や企業での設備投資のために販売されたものを「最終需要」と呼ぶ。

なお、最終需要には、市内で生産したものを市外の需要に応じて販売した「移輸出」も含んでいる。また、市内の需要を賄うために市外から生産物を購入したものを「移輸入」という。

産業連関表をヨコ（行）方向に見た場合、中間需要＋最終需要－移輸入＝市内生産額という関係式が成り立つ。

■ 2020 年阿久根市産業連関表 ver.1 で見た場合

2020 年阿久根市産業連関表 ver.1（統合３部門表）から阿久根市の第２次産業の生産活動や産業間取引の状況をみている。

〔2020 年阿久根市産業連関表 ver.1（統合３部門表）（億円）〕

需要部門 供給部門		中間需要				最終需要				需要合計	(控除) 移輸入	市内生産額
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	中間需要計	市内最終需要		移輸出	最終需要計			
						消費	投資					
中間投入	第1次産業	13.2	174.4	2.2	189.7	7.7	1.0	22.5	31.3	221.0	-131.2	89.8
	第2次産業	23.4	139.0	71.0	233.3	85.8	138.8	430.7	655.2	888.5	-288.4	600.2
	第3次産業	13.9	100.5	143.1	257.6	543.2	44.7	115.1	703.0	960.7	-251.5	709.2
	中間投入計	50.5	413.9	216.3	680.7	636.7	184.5	568.3	1,389.6	2,070.2	-671.1	1,399.1
粗付加価値	家計外消費支出(行)	0.5	6.2	11.2	17.9							
	雇用者所得	12.8	80.3	241.1	334.3							
	その他所得	25.9	100.0	240.6	366.5							
	粗付加価値部門計	39.3	186.3	492.9	718.5							
市内生産額		89.8	600.2	709.2	1,399.1							

<タテ（列）方向に見た場合>

第２次産業（市内生産額 600.2 億円）の生産に要した費用構成がわかる。

第２次産業では生産のために、第１次産業から 174.4 億円、第２次産業から 139.0 億円、第３次産業から 100.5 億円の計 413.9 億円の原材料等を購入（中間投入）し、186.3 億円の新たな価値（粗付加価値）を創出している。

<タテ（列）方向の関係式>

$$\begin{aligned}
 \text{市内生産額} &= \text{中間投入} + \text{粗付加価値} \\
 600.2 \text{ 億円} &= 413.9 \text{ 億円} + 186.3 \text{ 億円}
 \end{aligned}$$

<ヨコ（行）方向に見た場合>

第２次産業（市内生産額 600.2 億円）の販路構成（販売先）がわかる。

第２次産業からは、第１次産業へ 23.4 億円、第２次産業へ 139.0 億円、第３次産業へ 71.0 億円の計 233.3 億円をそれぞれの産業の原材料等（中間需要）として販売し、家計などの消費に 85.8 億円、企業などの投資に 138.8 億円、市外への移輸出に 430.7 億円の計 655.2 億円を最終需要として販売したことを表している。

この結果、中間需要と最終需要の合計である需要合計は 888.5 億円となり、第２次産業の生産額 600.2 億円を超えてしまう。これは、市内の需要に対する不足分 288.4 億円を市外から購入（移輸入）したことを示している。

<ヨコ（行）方向の関係式>

$$\begin{aligned}
 \text{市内生産額} &= \text{中間需要} + \text{最終需要} - \text{移輸入} \\
 600.2 \text{ 億円} &= 233.3 \text{ 億円} + 655.2 - 288.4
 \end{aligned}$$